

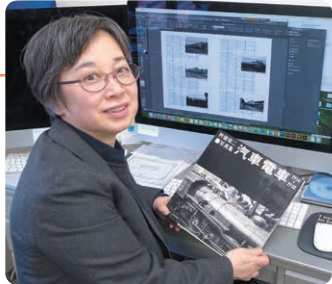


学芸員が思いのままにつづる、ミュージアムのこと、日々の仕事のこと。
展示に直接携わる学芸員の言葉の中から、
ミュージアムをもっと楽しむヒントを見つけてください。

CHAPTER
7

東北福祉大学・ 鉄道交流ステーション

学芸員 鈴木 佳子さん



机の傍らにお守り代わりに置いている写真集が1冊あります。大正・昭和期の長唄三味線方で重要無形文化財保持者でもある杵屋栄二が昭和初期に電車や汽車を撮ったものです。「三味線」と「鉄道」、あまり関係なさそうですが、これを見つけたときは小躍りしました。2007年当館オープン時、縁があり学芸員となりましたが、当時私が手がけていたのは街頭紙芝居の再発信。身銭を切って長編紙芝居や新作紙芝居公演に挑みつつ、かけがえのない人々との出会いがありました。一方、鉄道の方はゼロから、いやマイナスからの出発でした。驚にさらわれ海の沖に落とされたとようで、泳ぎ方も分らないままジタバタ。小学生のレベルから鉄道のことを学びつつ、紙芝居の活動は一時停止となりました。せめて…と始めた芸事が長唄三味線。難しい楽器ですが、倍音を感じながら弾いていると気持ちが落ち着きます。鉄道の方は、たくさんの鉄道のプロや愛好家の方々にご指南をいただきつつ、いまだ頭を掻きながらの頼りない毎日ですが、この写真集を手にとると、ふと栄二師匠が「いいよ、いいよ」と励ましてくれているような気がするのです。



学芸員1人体制なので、
学生は頼もしい戦力

これからの
イベント

4月5日(金)～7月6日(土)
第36回企画展「西公園C60 1ものがたり」

SMMA
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

SMMAとは

知的情報資源である仙台・宮城地域のさまざまな博物館が協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指します。

WEBサイト 見験楽学 仙台・宮城ミュージアム情報局

SMMA参加館の学芸員をはじめ現場スタッフによるとっておきの情報や、地域のミュージアムならではの情報をお伝えします。地元のみならず、旅行で訪れた方々にもおおいに役立ち、楽しみながら発見や体験をしていただけるウェブサイトです。

www.smma.jp



発行・問い合わせ先：仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)
電話：022-713-4483 ファックス：022-713-4482 電子メール：office@smt.city.sendai.jp ウェブサイト：https://www.smma.jp
編集／小原 瞳 デザイン／ANTWORKS イラスト／よしだみさこ 発行日／2019年2月28日 掲載した記事・情報は発行日の段階のもので、この紙はリサイクルできます



ミュージアム de ブレイクタイム



SPOT 東北学院大学博物館

5月25日(土)まで開催している「装い暮らし狩り遊び祭り -復元・アイヌの民具-」は、「博物館実習」履修の文学部3年生、「民俗学実習Ⅰ」履修の歴史学科2年生が手がけた、大学生の手による企画展。復元したアイヌ民具の展示はじめ、祭りの記録映像の上映など、学生ならではのユニークで分かりやすい視点で展示が行われています。期間中、入館者には大学生が企画展図録として制作した館蔵品図録を無料配布。ぜひ手に取ってみてください。



図 仙台市青葉区土樋1-3-1
☎ 022-264-6920
図 9:30～17:00(入館は～16:30)
図 日曜、祝日、大学の定める休業日
図 一般200円(高校生以下無料)

学院大生おすすめスポット

ビーぶる

昭和レトロな雰囲気の内装が漂う、スバゲティーと喫茶の店。人気は何といっても昔ながらのナポリタン。濃厚なソースが麺にたっぷり絡み、ボリュームもたっぷり。一度食べたらまた足を運びたくなる人が多く、学生をはじめ、OL、サラリーマンと幅広い世代から愛され続けています。

図 仙台市若林区新町112 ☎ 022-264-1637
図 11:00～21:00(L.O20:30) 図 日曜



村上屋餅店

仙台名物「づんだ餅」はじめ大福や団子など、手づくりの味にファンが多数。薄皮まで取りのぞいて滑らかに仕上げたづんだ餡は甘さ控えめで、枝豆本来の味や香りを楽しむことができます。イートインでは餅やお汁粉などの甘味とお茶を楽しむことができますので、出来立ての味を楽しんでみては？

図 仙台市青葉区北目町2-38 ☎ 022-222-6687
図 9:00～18:00 図 不定休

●てるや(五橋)

2018年オープンのちんすこう屋。まころんのようなコロんとした形がカワイイです。

●らぁ麺 たか樹(五橋)

もっちりとした平打ち麺に鶏の旨味いっぱいのスープが絡んで美味！

●miroku(五橋)

すべての商品は卵と乳不使用。身体にやさしくおいしいパンやお菓子が味わえます。

●とんかつ かつせい(北目町)

分厚いのちやわらかくてジューシーな老舗のとんかつ屋の味は大人気です。

●パール カピトーロ(北目町)

窯焼のピザがおいしいお店。ワインもリーズナブルに楽しめます。



SMMA参加館ゆかりの人物にせまります。人を知って、収蔵品をもっと身近に、もっと楽しく。

八巻 寿文 (1956～)

仙台市出身。1975年にリトグラフを学びにフランスへ留学。舞台照明や画家の仕事を経て、1982年から宮城教育大学に所属。美術家として舞踏とのコラボレーションのほか、インスタレーションを各地の街頭や野外で行う。1989年から(財)仙台市市民文化事業団職員。2002年4月から「せんだい演劇工房10-BOX」(同年6月オープン)に勤務し、2005年に二代目工房長に就任。2016年4月より「せんだい3.11メモリアル交流館」館長。2001年、日本照明家協会奨励賞受賞。2006年、宮城県芸術選奨。



人との出会いから生まれる 展示・イベントの形

気さくな人柄と首には手ぬぐい、オーバーオール姿といういで立ちで、せんだい3.11メモリアル交流館の名物館長として親しまれている八巻さん。館長はじめスタッフはみな来館した人たちや周辺地域の住民たちとの対話を心がけ、コミュニケーションの中から震災の教訓や知恵を紡ぎ展示として形にしています。「来てよかった」「ありがとうございました」そうおっしゃって帰る人が多いんです。そういう点でほかにはないミュージアムの形がここにはあるのかなと思います」と八巻さん。

震災後、南蒲生浄化センターの 闘いを記録した企画展

現在開催している企画展「それでも、下水は止められない。」も日々のコミュニケーションがきっかけとなって実現したもの。八巻さんは南蒲生浄化センターをくり返し訪問し、関係を深め、写真提供や作業員へのインタビューなど、浄化センターの全面的な協力を得ることができました。「下水につながるマンホールを見た時、その先に下水をキレイにする人がいて、さらにその先にある海をイメージーションできるようにになったら、すごく豊かなことだと思うんですよね」と八巻さん。震災でおきた事実だけを伝えるのではなく、事実と直面した人々の心の内やストーリーをひもといいてアプローチする、交流館ならではの展示の形にふれてみてください。



3か月に1度発行しているメモ館だよりの表紙に採用した、八巻さん作のスケッチ「仙台市農業園芸センター大温室」(1998)。これも被災して取り壊されてしまった風景の記憶と記録のひとつ



南蒲生浄化センターの東日本大震災発災から復旧までの歩みを多角的に見つめた企画展「それでも、下水は止められない。」は身につまされる思いとともに、人の営みの先にある海や自然を考えるきっかけに

ここでもっと知る！

せんだい3.11メモリアル交流館
図 仙台市若林区荒井字宮形85-4(地下鉄東西線荒井駅舎内)
☎ 022-390-9022 図 10:00～17:00
図 月曜(祝日の場合はその翌日) 祝日の翌日(土・日曜日、祝日を除く) 図 見学無料

～4月14日(日) 企画展「それでも、下水は止められない。」～東日本大震災・南蒲生浄化センターの知られざる闘い～

これらの
イベント

2019 春号 見験楽学 旬の

てくてく 仙台駅東口・新寺～榴岡～宮城野
“てくてく” 春のお散歩MAP

仙台
ミュージアム
情報誌
SENDAI MUSEUM INFORMATION MAGAZINE
SHUN NO KEN KEN GAKU GAKU BIN

